

一般社団法人

日本テレマン協会

2023 年度 活動報告書

バツハからベートーヴェンまで
日本テレマン協会
since 1963



Telemann Institute Japan

CONTENTS

4 TOPICS

5 日本テレマン協会について

- 5 日本テレマン協会について
- 5 テレマンとは
- 6 延原武春
- 7 テレマン室内オーケストラ
- 7 テレマン室内合唱団

8 60周年記念事業

- 8 1. Deepening 深化 ～音楽性の深化～
- 9 2. Collaboration 協働 ～他分野との協働～
- 10 3. Development 育成 ～次世代・次々世代の育成～
- 10 4. Contribution 寄与 ～国際交流への寄与～
- 11 5. Challenge 挑戦 ～新たな分野への挑戦～
- 11 6. Archive アーカイブ ～アーカイブ制作～

12 公演記録

- 12 定期演奏会
- 14 マンスリーコンサート
- 16 教会音楽シリーズ

17 依頼公演について

18 学校公演について

19 社会的活動について

20 年表

22 日本テレマン協会後援会について

- 22 役員名簿
- 22 年表
- 23 法人会員
- 23 個人会員

24 日本テレマン協会ディスコグラフィー



4月18日 第296回定期演奏会 開演前挨拶



2024年3月7日 兵庫県立芸術文化センター 1783年ウィーンにタイムスリップリハーサル風景



12月16日 カトリック豊中教会 いにしえクラシック 公演風景



12月24日 ザ・シンフォニーホール 第九 de クリスマス リハーサル風景



2024年1月13日 明石市民会館 オーケストラキャラバン 公演風景



4月13日 ガスピル食堂 安らぎの調べ〜J.S. バッハの世界へ リハーサル風景



4月18日 第296回定期演奏会 リハーサル風景



2024年3月19日 ホテルヒューイット甲子園 ランチコンサート 公演風景



5月11日 ホテルモントレ大阪 クライスラー・ヴァイオリン名曲集 公演風景



6月23日 堂島アバンザ 第124回アバンザランチタイムコンサート 公演風景



4月24日 サロン de Melante 特別演奏会 公演風景



5月24日 ホテルモントレラ・スール大阪 テレマン・コンサート 公演風景



10月26日 御霊神社 第8回テレマン名曲コンサート2023 公演風景

TOPICS

令和5年度大阪文化祭賞第三部門受賞

2023年10月15日に実施した協会創立60周年記念事業第300回定期演奏会の成果により大阪文化祭賞第三部門を受賞しました。

2024年3月22日に大阪市内で実施された贈呈式では受賞者を代表し、記念演奏を披露しました。

受賞理由は下記の通りです。

(第3部門：洋舞・洋楽)

創立60周年を迎えた日本テレマン協会が、その記念事業の一環として第300回定期演奏会で取り上げたのはJ. S. バッハ《マタイ受難曲》で、1829年にメンデルスゾーンによって復活上演が行われた際の演奏形態を再現しようというもの。

創設者である延原武春の指揮により引き出された表現は、いつもの古楽ア

プローチとは異なり、ロマン派の仮面をかぶった演技をしているようで非常に興味深かった。メンデルスゾーンの意図を汲むという意味で、指揮者としての延原の能力を再確認でき、オーケストラも優れた演奏。福音史家を務めた新井俊稀とイエスの篠部信宏の充実した歌唱をはじめ、日本テレマン協会所属のソリストたちは、合唱団も含めて、延原の指揮に寄り添った演奏を繰り広げた。約200年前の演奏の状況を再現するというユニークな試みが、音楽的な密度を伴って表現された。

以上の理由により、この公演を高く評価して大阪文化祭賞を贈呈する。

令和5年度 大阪文化祭賞 贈呈式

主催 大阪府 大阪市 公益財団法人関西・大阪21世紀協会



令和5年度 大阪文化祭賞 贈呈式

主催 大阪府 大阪市 公益財団法人関西・大阪21世紀協会



NHK BS クラシック倶楽部等への出演

NHK BS プレミアム「クラシック倶楽部」で2023年10月30日と31日の2日間にわたり大阪市中央公会堂中集會室での演奏が放送されました。収録は7月3日～4日の2日間にわたり、4Kのビデオカメラやクレーンなども複数台使用した本格的なものとなりました。

内容はテレマンやバッハの名曲を中心に、ヴィヴァルディ「四季」やモーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」まで、当協会の専門分野を網羅した

ものとなりました。また、演奏だけではなく楽団の歩みや公会堂の歴史などもご紹介して頂きました。

また、同番組のための収録で第296回定期演奏会(4月18日開催分)や第534回マンズリーコンサート(5月30日開催分)も取材して頂き、同局アナウンサーの高瀬耕造氏による音楽監督延原武春のインタビューとともにNHK総合ニュース「きん5時」で放送されました。



日本テレマン協会 について

日本テレマン協会について

日本テレマン協会は1963年、当時音楽大学の学生であった延原武春（現音楽監督・CEO）が、作曲家テレマンの作品と音楽に対する理念に感銘を受け創設した、18世紀の音楽を専門とする演奏団体です。定期演奏会、マンスリーコンサート、教会音楽シリーズの3種類の主催公演を柱として、関西を拠点に50年以上活動し、これまでに文化庁芸術祭優秀賞やサントリー音楽賞などを受賞しました。2008年には協会創立

45周年を記念し、初演当時の楽器を使用したベートーヴェンの交響曲全曲公演を開催。このことが契機となり延原武春はドイツから功勞勲章功勞十字小授章を受賞しました。また、未来の文化の担い手を育てるため、学校などへの出張コンサートにも積極的に取り組んでいます。

2019年には創設当時からの演奏会プロデュース活動によるクラシック音楽普及に対する功績が認められ、ベストプロデュース賞を受賞しました。

音楽監督・CEO：延原武春

副代表：奥田博子

ヨーロッパ総局長：高野昭夫

ミュージックディレクター／

テレマン室内合唱団指揮者：パブロ・エスカンデ

古典鍵盤楽器奏者：高田泰治

ソロ・コンサートマスター：浅井咲乃

首席客演コンサートマスター：ウッラ・ブンディース

エグゼクティブ・アドバイザー：和田誠一郎（弁護士）・永重史郎

オフィス・アドバイザー：奥田忠道

アドバイザー：辻 一郎（元毎日放送取締役）

和田省一（朝日放送音楽振興会理事長）

笠谷和比古（国際日本文化研究センター名誉教授）

上山信一（慶應大学教授／大阪府市特別顧問／愛知県政策顧問）

園崎明夫（毎日新聞大阪開発エグゼクティブ・プロデューサー）

梅本史郎（株式会社MBSメディアホールディングス顧問）

事務局長：今井 良

事務局：中田吉美・野村茉由・後藤田裕仁子・伊豆田佑香



テレマンとは

ゲオルク・フィリップ・テレマン（1681年3月14日～1767年6月25日）は後期バロック音楽のドイツ人作曲家。バッハ、ヘンデルも足元に及ばない高い評価を受けていた作曲家で、大変な多作家としても有名です。代表的な作品は「食卓の音楽」という曲集。延原武春はテレマンの自叙伝にあった「人が喜ぶために作曲している」という言葉に感銘を受け、その名前をかかげた楽団を結成しました。

テレマンは大変面倒見の良い人でも

あったそうで、バッハの次男の名付け親でもあり、また自身が音楽監督を務めていたハンブルクで臨終の時を迎える際、後継者にその「次男」カール・フィリップ・エマニュエルを指名したという逸話も残っています。またヘンデルとの親交は深く、ヘンデルはロンドンから様々な珍しい植物をテレマン宛に送っていたそうです。さらに、テレマンが「食卓の音楽」を出版する際、予約者の最初の方にヘンデルの名が入っていたことも有名な話です。

1963年日本テレマン協会の前身である“テレマン・アンサンブル”を結成。以来50年余の歳月を経てその業績は目覚ましく、日本におけるバロック音楽の探究と普及という専門的領域のみならず、その広い視野と行動力によって、特に西日本の音楽文化の広範な普及に多大な貢献をもたらした後、近年では長年の古楽探究を礎とした音楽解釈とその熟練された手腕を持つ巨匠指揮者としての今後がおおいに嘱望されている。

指揮者としてライブツィヒ放送交響楽団やゲヴァントハウス・バッハ・オーケストラなどをはじめとする海外のオーケストラとの共演の機会が幾度もあったにも関わらず、その主眼はあくまでも自らが創設した日本テレマン協会での活動に注がれた。1970年代後半からその評価は関西を超えて全国的なものとなり、テ

レマン室内オーケストラ・テレマン室内合唱団との演奏は文化庁芸術祭・優秀賞やサントリー音楽賞を受賞するまでに高く評価されることとなり、さらにはライブツィヒで開催されたバッハ生誕300周年記念国際音楽祭に日本の団体としては唯一招かれる等、ドイツ各地やロンドン、パリ、ボルドー等にも招聘され、M. アンドレ、F. アーヨ、M. ラリュエ、J.P. ランバル、H.J. シェレンベルガー、P. ダム、A. ビルスマ、G. カーなどの名手との共演の他、J.E. ガーディナー、F. ブリュッヘン、C. ホグウッド、G. ボッセ等とも親しく交流することとなる。

延原武春の音楽的業績は、教会の聖堂を舞台としてテレマン作曲の『マタイ受難曲』やマテゾン、テレマン、ヘンデル、カイザーが競作した『ブロッケス受難曲』など本邦初演、ヘンデルの『メサ

イア』9種類の異版を1年に一版ごと取り上げるなど枚挙に暇がないが、殊にユニークなのが1982年にベートーヴェンの第九交響曲を初演当時の編成と作曲者指定のテンポに従って演奏すること・・・これはその当時としては極めて斬新なアプローチであったため、ガーディナーやホグウッドといった古楽演奏家達が延原の第九の録音を所望したというエピソードは大変興味深い。延原のベートーヴェンに対するアプローチはこれに留まるものではなく、2006年には第九交響曲をクラシカル楽器（古典派時代の楽器）で演奏。さらに2008年にはクラシカル楽器によるベートーヴェン：交響曲全曲・合唱幻想曲・ミサ・ソレムニス・ツィクルスを挙行。これが契機となり延原は『ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小授章』を授賞することとなった。



延原の活動の中心には常に日本テレマン協会が存在してきたことは言うまでもないが、その間には海外楽団からの招聘や、岩城宏之音楽監督時代のオーケストラ・アンサンブル金沢や九州交響楽団などからバロックから古典のレパートリーのスペシャリストとして招かれることもあった。2009年には久しぶりに大阪フィルに客演することとなり、2010年～12年には大阪フィルは延原とともにベートーヴェン：交響曲全曲シリーズを主催。『『大阪フィルの次代を拓く』』と言って過言ではない名演』と『『田園』がかくも力強く、生命力にみちた音で鳴り響いたことはなかったのではないか』(評：故小石忠男／日本経済新聞9月30日夕刊)等と絶賛を博するなど一際大きな話題となった。

また、同時期に日本フィル横浜定期

演奏会にも客演。その際のブラームス：交響曲第1番（第2楽章は初稿）はEXTONレーベルからCD化された。2011年には延原の元に多くのプレイヤーが集う“一日だけのオーケストラ”としてOrchestra Japan 2011が結成され、マーラー：交響曲第4番を演奏。その演奏はライヴノーツ・レーベルからリリースされ『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれ、これらの成果が契機となってこのオーケストラは2012年にも再結集され、京都・大阪・神戸でやはりロマン派のレパートリーを取り上げている。2017年に日本センチュリー交響楽団を指揮した「ベートーヴェン：交響曲第6番『田園』ほか」がCD化されてその演奏は各方面から高く評価された。また、近年大阪市中央公会堂で開催している日本テレマン協会定期演奏会大阪公演で

は、会場の雰囲気から「中之島をウィーンに！」というキャッチコピーのもと公演を企画。バロックから古典派にかけての幅広い演目を取り上げる中、2020年から継続的に取り上げているモーツァルトの後期交響曲群は、その澁澁とした解釈や均整の取れた緊張と緩和のバランス感覚などから高い評価を得ている。さらに、サリエリやストリナザッキといった、これまで歴史に埋もれていた作曲家の作品にもスポットを当てることで18世紀音楽のレパートリーの深化と拡充に成功している。

かつて、アーノンクールやガーディナーといった古楽のスペシャリストたちがヨーロッパのモダン・オーケストラから指揮者として招かれるようになったのと似通ったムーブメントが今、延原武春のもとにも起ころうとしている。

テレマン室内オーケストラ Telemann Chamber Orchestra



1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。サントリー音楽賞を受賞した日本初のプロオーケストラでもある(同賞は現在も当協会と東京交響楽団、京都市交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)。そのほかの主な

受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」(関西初)等。

1990年バロック・ヴァイオリン奏者のサイモン・スタンディジをミュージック・アドヴァイザーとし、バロック楽器(18世紀当時の楽器およびそのレプリカ)による演奏を始める。2003

年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ・フェスティバル」に出演し、C.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器(古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ)による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。

「マンスリーコンサート」(会場は大阪倶楽部4階ホール)を舞台に「聴衆とともにつくる価値」の創造に力を入れ、そこをベースに様々な奏者を輩出している。チェンバロおよびフォルテピアノの高田泰治、ヴァイオリンの浅井咲乃などはその代表的な存在として注目を集めている。

2012年にはドイツよりバロック・ヴァイオリン奏者ウッラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。

2018年、第九アジア初演百周年記念“よみがえる「第九」演奏会”に出演。

2023年には協会創立60周年事業第300回定期演奏会で1829年のメンデルスゾーンによるバッハ「マタイ受難曲」蘇演を再現。その功績が認められ、令和5年度大阪文化祭賞を受賞。

テレマン室内合唱団 Telemann Chamber Chorus



1969年に延原武春が創設した合唱団。主にテレマン室内オーケストラとともに演奏活動を続けており、1985年には「J.S. バッハ生誕300年記念国際音楽祭」に、日本から唯一招待され参加し現地新聞等やその外電も含め当時大きな評判となる。ホームグラウンドとも言うべきカトリック夙川教会に於ける年4回の「教会音楽シリーズ」は、最も大きな活躍の場となっている。これまでに、

ヘンデルの10種類の違ったバージョンを年一回のサイクルで連続的に公演した「メサイア10年連続公演シリーズ」、「ヘンデル本邦初演オラトリオシリーズ」、幻のテレマン作受難曲集の公演「テレマンプロジェクト」、また「延原武春の受難曲シリーズ」を開催するなど、数多くの挑戦的な試みに取り組み、多くの注目と称賛の声を集めている。

特に、大阪のザ・シンフォニーホール

にて1983年にスタートした「100人の第九」と題された公演にはテレマン室内オーケストラと共に出演し、現在でも連続的に継続しており、人気シリーズとして関西のクラシック音楽の名物公演になっている。

創立50周年を機に、パブロ・エスカンデ氏が合唱団指揮者に、中村朋子氏がディレクターに就任した。

協会創立 60周年 記念事業

日本テレマン協会では創立 60 周年を記念して、10 年先を見越し未来につながる種をまくことを意識した 6 つのコンセプトで記念事業を実施しました。

1. Deepening 深化 ～音楽性の深化～
2. Collaboration 協働 ～他分野との協働～
3. Development 育成 ～次世代・次々世代の育成～
4. Contribution 寄与 ～国際交流への寄与～
5. Challenge 挑戦 ～新たな分野への挑戦～
6. Archive アーカイブ ～アーカイブ制作～

周年事業の詳細は以下の通りです。

1. Deepening 深化 ～音楽性の深化～

当協会の専門分野である 18 世紀音楽について、さらなる音楽性の深化を目指した公演を実施しました。

定番となっている公演としては、宗教音楽の大家としてのイメージが強いバッハの世俗曲にスポットを当てたバッハ「ブランデンブルク協奏曲」全曲（第 301 回定期演奏会）、鷺見敏によるバッハ「無伴奏チェロ組曲」全曲公演（第 303 回定期演奏会）、高田泰治によるバ

ッハ「ゴルトベルク変奏曲」（第 304 回定期演奏会）を実施しました。

7 月 26 日開催の第 299 回定期演奏会では高田泰治リサイタルとしてテレマン、J.S. バッハ、J.S. バッハの次男でテレマンが名付け親となった C.P.E. バッハの作品を取り上げました。

さらに 7 月 21 日開催の第 298 回定期演奏会では「中之島をウィーンに」特別公演として 18 世紀ウィーンでモーツァルトが

実際に行った公演の再現公演を実施しました。18 世紀の演奏会は現代の「序曲・協奏曲・交響曲」の 3 本立てとは違い、1 曲の交響曲の第 1 楽章を最初に演奏した後は協奏曲やオペラ・アリア、独奏曲などの様々な曲が演奏され、最後に冒頭の交響曲の残りの楽章が演奏されるというスタイルでした。本公演では会場の大阪市中央公会堂中集会室の雰囲気も相まって、18 世紀の雰囲気を感じて頂ける公演となりました。



2. Collaboration 協働 ～他分野との協働～

音楽監督延原武春の理想としている「気軽に聴きに行ける演奏会」、「日常にあるクラシック音楽」というコンセプトで、合計10社の旅行社やホテルとの協働により、7つの会場において食事と音楽を組み合わせた公演を33公演実施しました。

本コンセプトの中心的な企画として、毎日新聞大阪開発株式会社、ホテルモントレグループとの協働で「G.Ph. テレマン『食卓の音楽』Dinner Concert」を開催いたしました。テレマンの「食卓の音楽」と言えばバッハのブランデンブルク協奏曲と並び称されるバロック時代の曲集ですが、本来

は貴族が食事をする際にBGMとして使用された音楽です。そこで、18世紀当時のドイツで提供されていた料理を再現したディナーと共に本作品をお楽しみ頂くことで18世紀の貴族の雰囲気味わっていただくという趣旨で実施しました。

公演の詳細は下記の通りです。

【テレマンのハンブルク市庁舎での晩餐会】

日時 2023年10月24日(火)18時開演

会場 ホテルモントレ銀座

演目 G.Ph. テレマン：「食卓の音楽」より

第2集 管弦楽組曲 TWV 55:D1

第3集 四重奏曲 TWV 43:e2

第1集 三重協奏曲 TWV 53:A2

第2集 トリオ・ソナタ TWV 42:e2

第2集 ヴァイオリン・ソナタ TWV 41:A4

第2集 終曲 TWV 50:9

出演 指揮：延原武春 テレマン室内オーケストラ

【G.Ph. テレマン『食卓の音楽』Dinner Concert】

日時 2023年11月22日(水)18時開演

会場 ホテルモントレグラスミア大阪

演目 G.Ph. テレマン：「食卓の音楽」より

第3集 管弦楽組曲 TWV 55:B1

第3集 四重奏曲 TWV 43:e2

第1集 三重協奏曲 TWV 53:A2

第2集 トリオ・ソナタ TWV 42:e2

第2集 ヴァイオリン・ソナタ TWV 41:A4

第3集 終曲 TWV 50:10

出演 指揮：延原武春 テレマン室内オーケストラ



また、堂島ロールのモンシェールとのコラボレーションで「堂島ロイヤルミルクティーロールデコレーション」を発売しました。アールグレイがさわやかに香る「堂島ロイヤルミルクティーロール」にほろほろとしたシュトロイゼル・カリッと香ばしいクロッカン・歯ごたえのあるドライ克蘭ベリーといった食感を楽しめる素材を飾りました。音楽を聴きながらティータイムにお召し上がって頂くスイーツとしてモンシェールがおススメしたい逸品です。

ご購入特典として、ロールケーキ掛け紙に記載されたQRコードを読み込んで頂くことで、2023年4月の定期演奏会東京公演の演奏をご鑑賞頂ける特別動画を配信しました。



3. Development 育成 ～次世代・次々世代の育成～

一般的に「次世代育成のための演奏会」とは子供が対象となりますが、音楽監督延原の考えでは「次世代」は小さな子供を持つ親世代であり、子供は「次々世代」ということで、親子共に満足できる公演を実施することで次世代・次々世代の聴衆の育成に取り組みたいと考えています。ホールとの協働で全6公演を実施しました。

内容としては、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」やバッハ「G線上のアリア」などの定番のクラシック音楽の他に、「おもちゃのチャチャチャ」などのお子様にも馴染みの演目を取り上げました。通常のホールではなく、基本的に多目的ホールなどの平場での開催となりましたので、舞台上のオーケストラを鑑賞するのではなく、演奏者の息遣いまで感じられる間近での公演鑑賞ということで、ご来場頂いた親子の皆様にはクラシック音楽の魅力をしっかりと感じて頂ける公演となりました。



【公演】

- 5月 6日 東りいたみホール（兵庫県伊丹市）
「ファミリーコンサート in ITAMI」（集客：141名）
- 5月28日 豊能町立ユーベルホール（大阪府豊能町）
「0歳から入場できる！ファミリーコンサート」（集客：223名）
- 6月18日 ゆめニティプラザ（大阪府松原市）
「ゆめプラ子ども劇場 テレマン・ファミリーコンサート」（集客：74名）
- 7月 8日 アゼリアホール（大阪府池田市）
「親子でたのしむクラシック」（集客：142名）
- 7月30日 LIC はびきの（大阪府羽曳野市）
「親子で楽しむクラシックコンサート」（集客：31名）
- 8月29日 西神中央ホール（兵庫県神戸市）
「ファミリーコンサート in 西神中央」（集客：165名）



4. Contribution 寄与 ～国際交流への寄与～

演奏活動による国際交流への寄与を目的とした公演を実施しました。テレマンが活躍した都市ハンブルクは大阪と友好都市提携を結んでいます。

4月18日に実施した第296回定期演奏会ではドイツより首席客演コンサートマスターのU.ブンディース氏を招聘し、テレマンの作品のみで構成された公演を実施しました。

また、10月15日開催の第300回定期演奏会では演目がハンブルク出身のメンデルスゾーンによるバッハ「マタイ受難曲」蘇演再現公演ということで、大阪市・ハンブルク市友好都市提携35周年プレ記念企画及び大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館開設150周年プレ記念企画として実施しました。当日配布したプログラムには自由ハンザ都市ハンブルク第一市長P.チェ

ンチャー博士及び大阪市長横山英幸様からメッセージを頂き、開演前にはメラニー・ザクシンガー大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事からの挨拶があり、日本に滞在中のハンブルクに関係のある方々にも多数ご来場頂きました。音楽文化を通じてハンブルク市と大阪市の交流に寄与することが出来ました。



5. Challenge 挑戦 ～新たな分野への挑戦～

ヨーロッパでは18世紀音楽の専門団体が、そのバロックから古典派までの知識を活かし、ロマン派の作品の時代考証を踏まえた演奏を展開しています。当協会としてもバロック・古典のスペシャリストの延原武春の解釈によるロマン派の公演を実施出来ればと考えており、メンデルスゾーンに焦点を当てて2つの公演

を実施しました。

バッハが現在有名なのはメンデルスゾーンが1829年（ベルリン）と1841年（ライプツィヒ）にマタイ受難曲を蘇演したことがきっかけとされています。メンデルスゾーンが実際に演奏に使用した楽譜がオックスフォードに実在しており、そのコピーを取り寄せて第300回定期演奏会で

当時のマタイ受難曲の再現演奏を実施しました。1841年版の再現演奏は既に他の演奏団体により実施されていますが、1829年版は本邦初演となりました。

また、2024年1月には第302回定期演奏会でメンデルスゾーンの交響曲とヴァイオリン協奏曲などを取り上げ、「音楽の友」誌の公演評などで高い評価を得ました。



6. Archive アーカイブ ～アーカイブ制作～

当協会の演奏活動の中で非常に特徴的であった演目をCDとして残すことで、演奏会に直接ご来場頂けない方にも当協会のことを知って頂くためにCD3種をリリースしました。

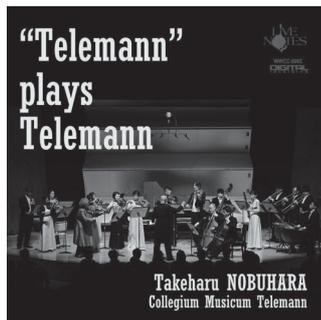
1つはバッハの代表作の一つである管弦楽組曲です。管弦楽組曲は全4曲のうち、第2番～第4番は本来現在よく知られている編成のために書かれたのではないという学説があります（アメリカの

音楽学者リフキン氏の提唱による説）。そこで、その学説に基づいた形での第2番と第3番、さらに同「第5番」として一般的に知られ現在では作者不詳となっている組曲ト短調を組み合わせました。

さらに、古典鍵盤奏者の高田泰治によるフランス・バロックです。高田はバッハやベートーヴェンなど、ドイツ音楽に定評がありますが、フランスのオリヴィエ・ポモン氏の薫陶を受けるなど、フランスのバ

ロック音楽にも精通しております。これまで京都や東京での公演ではフランス音楽を取り上げて参りましたが、今回満を持してCDとしてリリースしました。

最後に、2023年4月20日に実施した東京での定期演奏会のライブ録音です。内容としてはバロック楽器を使用したテレマン作品集となっており、特に2本のトランペットを含む組曲ニ長調は珍しい録音となっています。



公演記録

【計画時】

主催公演 20公演
 定期演奏会 9公演
 マンスリーコンサート 9公演
 教会音楽シリーズ 2公演

依頼公演 77公演
 合計 97公演

【報告時】

主催公演 24公演
 定期演奏会 9公演
 マンスリーコンサート 8公演
 教会音楽シリーズ 2公演
 その他 5公演

依頼公演 98公演
 合計 122公演

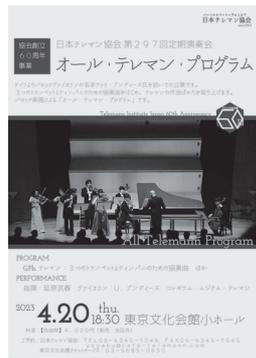
定期演奏会 Subscription Concert

日本テレマン協会第296回定期演奏会 テレマンの街ハンブルクから 中之島をウィーンに！

日時 2023年4月18日 18:30
会場 大阪市中央公会堂 3階中集会室
曲目 G.Ph. テレマン：
 リコーダーとフルートのための協奏曲
 ヴァイオリン協奏曲「蛙」
 四声部の協奏曲 TWV43:g4
 弦楽のための組曲 TWV55:fs1
 ヴァイオリン・ソナタ TWV41:D1
 三重協奏曲 TWV53:A2
出演 指揮：延原武春
 バロック・ヴァイオリン：U. ブンディース
 リコーダー：北山 隆
 トラヴェルソ：森本英希
 コレギウム・ムジクム・テレマン
来場者数 307名
備考 ドイツから首席客演コンサートマスターのブンディース氏を招いての公演。テレマンの作品ばかりを取り上げました。

日本テレマン協会第297回定期演奏会 オール・テレマン・プログラム

日時 2023年4月20日 18:30
会場 東京文化会館小ホール
曲目 G.Ph. テレマン：
 序曲 ニ長調 TWV55:D18
 ヴァイオリン協奏曲「蛙」 TWV51:A4
 序曲 嬰へ短調 TWV55:fs1
 ヴァイオリン・ソナタ TWV41:D1
 3つのトランペットとティンパニのための協奏曲
出演 指揮：延原武春
 バロック・ヴァイオリン：U. ブンディース
 コレギウム・ムジクム・テレマン
来場者数 327名
備考 第296回公演同様、テレマンの作品のみで構成された公演。特に序曲 TWV55:D18 は演奏機会の少ない曲で、埋もれた名曲をご紹介します良い機会となりました。この公演のライブ録音は60周年記念事業でCD化され、2024年の2月に発売されました。



日本テレマン協会第 298 回定期演奏会
テレマンの街ハンブルクから 中之島をウィーンに！

日時 2023年7月21日 18:00
会場 大阪市中央公会堂 3階中集会室
曲目 W.A. モーツァルト：
交響曲第35番「ハフナー」Kv385 第1楽章
歌劇「イドメネオ」Kv366 第2幕アリア
歌劇「ルーチョ・シッラ」Kv135 第2幕アリア
ピアノ協奏曲第13番 Kv415
ジーク Kv574
セレナード第9番「ポストホルン」Kv320 第3楽章
グルックの主題による変奏曲 Kv455
レチターティーヴォとロンド Kv416
交響曲第35番「ハフナー」Kv385 第2～第4楽章
指揮：延原武春
フォルテピアノ：高田泰治
ソプラノ：中村朋子・渡辺有香
テレマン室内オーケストラ Classic
来場者数 472名
備考 モーツァルトが実際に1783年にウィーンのブルク劇場で行った公演を再現しました。当時の演奏会のプログラムのスタンダードは文献等で目にする機会はあるけれども実際に体験する機会はほとんどなく、「中之島をウィーンに！」企画の集大成とも言える特徴ある公演となりました。



日本テレマン協会第 300 回定期演奏会
テレマンの街ハンブルクから 中之島をウィーンに！

J.S. バッハ「マタイ受難曲」メンデルスゾーン 1829年版
日時 2023年10月15日 18:00
会場 大阪市中央公会堂 3階中集会室
曲目 J.S. バッハ：マタイ受難曲メンデルスゾーン 1829年版
出演 指揮：延原武春
イエス：篠部信宏
エヴァンゲリスト：新井俊稀
テレマン室内合唱団・京都市少年合唱団
テレマン室内オーケストラ Classic
来場者数 482名
備考 バッハが現在のように有名になったきっかけである1829年のメンデルスゾーンによるマタイ受難曲蘇演という歴史的なイベントを再現することにより、バッハが活躍した18世紀、忘れ去られて再び注目されるようになった19世紀、19世紀の伝統を受け継いだ20世紀前半、古楽の考え方が普及した現代という一連の流れが一つにつながりました。
企画立案から楽譜の入手、編集、カットの確認、蘇演時の編成など、実現のために非常に時間と労力を必要とした公演でしたが、公演の成果が認められ、令和5年度大阪文化祭賞第三部門を受賞することが出来ました。



日本テレマン協会第 299 回定期演奏会
バロックの終焉から古典派の萌芽へ
バッハ家とテレマン

日時 2023年7月26日 18:30
会場 東京文化会館小ホール
曲目 J.S. バッハ：トッカータ BWV913
G.Ph. テレマン：幻想曲 TWV33:13-14、23-24
C.P.E. バッハ：ヴェルテンベルク・ソナタ 第1番
J.S. バッハ：イギリス組曲 第5番 BWV810
チェンバロ：高田泰治
出演 指揮：延原武春
チェンバロ：高田泰治 ヴァイオリン：浅井咲乃
テレマン室内オーケストラ
来場者数 241名
備考 大バッハはテレマンと親交があり、次男であるエマニュエルの名付け親はテレマンでした。後にエマニュエルはテレマンの後任としてハンブルクで音楽監督を務めます。エマニュエルは父親の作風を下敷きにテレマンからも強い影響を受けて古典派の基礎を作ることになりますが、本公演はその三者の個性、様式の違いを実感することが出来るプログラムとなりました。

日本テレマン協会第 301 回定期演奏会
バッハ ブランデンブルク協奏曲 全曲公演

日時 2023年11月28日 18:00
会場 東京文化会館小ホール
曲目 J.S. バッハ：ブランデンブルク協奏曲
第1番 へ長調 BWV1046
第2番 へ長調 BWV1047
第3番 ト長調 BWV1048
第4番 ト長調 BWV1049
第5番 ニ長調 BWV1050
第6番 変ロ長調 BWV1051
出演 指揮：延原武春
チェンバロ：高田泰治 ヴァイオリン：浅井咲乃
テレマン室内オーケストラ
来場者数 606名
備考 例年実施している公演ですが、10月末にNHKのBS「クラシック倶楽部」で大阪市中央公会堂での演奏風景が放送されたことを受けて、非常に多くのお客様にご来場頂きました。

日本テレマン協会第 302 回定期演奏会
テレマンの街ハンブルクから 中之島をウィーンに！

日時	2024 年 1 月 18 日 18 : 30
会場	大阪市中央公会堂 3 階中集会室
曲目	F. メンデルスゾーン： 序曲「フィンガルの洞窟」 ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 交響曲 第 3 番「スコットランド」
出演	指揮：延原武春 ヴァイオリン：浅井咲乃 テレマン室内オーケストラ
来場者数 備考	398 名 メンデルスゾーンはロマン派の作曲家として分類されていますが、幼少期よりバロックや古典派に通じ、その作風は他のロマン派の作曲家のものよりも繊細で古典派的な性質を持っています。ヨーロッパではそういった作風を意識して 18 世紀音楽の専門団体による室内乐的なアプローチがすでに試みられていますが、日本においては後期ロマン派的な重厚な演奏が一般的となっています。本公演では古典派の演奏に定評のある延原武春の演奏解釈により、スマートな演奏を実現しました。特に有名なヴァイオリン協奏曲は前述の傾向が顕著で新鮮な演奏が難しい曲ですが、ソロ・コンサートマスター浅井による 18 世紀的なアプローチが成功し、好演となりました。

日本テレマン協会第 303 回定期演奏会
鷺見敏リサイタル バッハ無伴奏組曲全曲

日時	2024 年 1 月 28 日 13 : 30
会場	東京文化会館小ホール
曲目	バッハ：無伴奏チェロ組曲 第 1 番 ト長調 BWV1007 第 2 番 ニ短調 BWV1008 第 3 番 ハ長調 BWV1009 第 4 番 変ホ長調 BWV1010 第 5 番 ハ短調 BWV1011 第 6 番 ニ長調 BWV1012
出演	チェロ / チェロ・ピッコロ：鷺見 敏
来場者数 備考	411 名 公演時間は 3 時間を超えますが、全てを聴くことに達成感を感じて下さるお客様が増え、人気の公演となっています。

日本テレマン協会第 304 回定期演奏会
高田泰治チェンバロリサイタル
バッハ ゴルトベルク変奏曲

日時	2023 年 3 月 13 日 18 : 30
会場	東京文化会館小ホール
曲目	J.S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲 BWV988
出演	チェンバロ：高田泰治
来場者数 備考	304 名 高田は毎年違ったアプローチをしており、「恒例」としてご来場下さる方も増えてきました。



マンスリーコンサート Monthly Concert

日本テレマン協会第 534 回マンスリーコンサート
バロック時代に花咲いた「大」協奏曲
合奏協奏曲の夕べ Vol.2

日時	2023 年 5 月 30 日 18 : 30
会場	大阪俱樂部 4 階ホール
曲目	A. ヴィヴァルディ 歌劇「オリンピアード」序曲 調和の靈感 作品 3 より 第 1 番、第 2 番、第 10 番、第 12 番 トリオ・ソナタ 第 12 番「ラ・フォリア」 ラ・ストラヴァガンツァ 作品 4 第 12 番 弦楽のためのシンフォニア RV156
出演	指揮：延原武春 コレギウム・ムジクム・テレマン
来場者数 備考	216 名 バロック楽器を使用した合奏協奏曲の公演。当日は NHK の取材が入り、公演の様子が全国放送のニュースで放送されました。

日本テレマン協会第 535 回マンスリーコンサート
高田泰治リサイタル
クーブラン一族のクラヴサン音楽集

日時	2023 年 6 月 29 日 18 : 30
会場	大阪俱樂部 4 階ホール
曲目	A-L. クーブラン：クラヴサン曲集より 「シェロン」「悲しむ人」 「おしゃべり女たち」「道化またはアダム」 F. クーブラン： クラヴサン曲集 第 1 巻 第 4 オールド クラヴサン曲集 第 3 巻 第 13 オールド L. クーブラン：組曲 イ短調 クラヴサン：高田泰治
出演	クラヴサン：高田泰治
来場者数 備考	143 名 同内容の CD 発売記念公演として実施した公演。ドイツ音楽に定評のある高田泰治ですが、ベースラインを意識した本格的なフランス音楽の演奏となりました。

日本テレマン協会第 536 回マンスリーコンサート

浅井咲乃リサイタル

ヴァイオリンで綴る叙情的世界

日時	2023年8月9日 18:30
会場	大阪倶楽部 4階ホール
曲目	F. メンデルスゾーン：シンフォニア 第2番 E. エルガー：愛の挨拶・ロマンス M. ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ C. サン＝サーンス：ロマンス 芥川也寸志：バラード F. ショパン：ノクターン N. リムスキー＝コルサコフ：熊蜂の飛行 M. ブルッフ：スコットランド幻想曲 第2・3楽章 F. クライスラー：プレリュードとアレグロ
出演	ディレクター：延原武春 ヴァイオリン：浅井咲乃 テレマン室内オーケストラ
来場者数	182名
備考	ソロ・コンサートマスター浅井咲乃によるリサイタル。この公演で初めて披露する曲が数曲あり、力が入ったプログラムとなりました。



日本テレマン協会第 538 回マンスリーコンサート

高田泰治リサイタル

ゴルトベルク変奏曲

日時	2023年12月8日 18:30
会場	大阪倶楽部 4階ホール
曲目	J.S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲 BWV988
出演	チェンバロ：高田泰治
来場者数	175名
備考	毎年恒例で開催している公演。定期演奏会東京公演と同様に、毎年違ったアプローチを楽しみにしてご来場くださる方が増えています。

日本テレマン協会第 537 回マンスリーコンサート

村田佳生リサイタル

オール・テレマン・プログラム

日時	2023年9月29日 18:30
会場	大阪倶楽部 4階ホール
曲目	G.Ph. テレマン： リコーダー・ソナタ TWV41:F2 リコーダー・ソナタ TWV41:f1 室内協奏曲 TWV43:g3 リコーダー・ソナタ TWV41:C2 リコーダー・ソナチネ TWV41:a4 リコーダー協奏曲 TWV51:C1
出演	ディレクター：延原武春 リコーダー：村田佳生 コレギウム・ムジクム・テレマン
来場者数	187名
備考	協会所属のリコーダー奏者村田佳生によるリサイタル。作曲家テレマンはリコーダーの名手であったことからリコーダーのための作品が多くあり、協会創立 60周年を意識してテレマンの作品のみで構成されたリサイタルとなりました。



日本テレマン協会第 539 回マンスリーコンサート

鷲見 敏リサイタル

バッハ無伴奏組曲全曲

日時	2024年1月23日 18:00
会場	大阪倶楽部 4階ホール
曲目	バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007 第2番 ニ短調 BWV1008 第3番 ハ長調 BWV1009 第4番 変ホ長調 BWV1010 第5番 ハ短調 BWV1011 第6番 ニ長調 BWV1012
出演	チェロ / チェロ・ピッコロ：鷲見 敏
来場者数	149名
備考	バロック楽器でのバッハのチェロ組曲全曲は演奏機会も少なく、定期演奏会東京公演同様に人気の公演となっています。

日本テレマン協会第 540 回マンズリーコンサート
～ポピュラー・プログラム 25 回記念～
My Funny Valentine

日時	2024 年 2 月 14 日 18:30
会場	大阪俱樂部 4 階ホール
曲目	W.A. モーツァルト： アイネ・クライネ・ナハトムジーク Side by Side・Tammy・モナリザ・I Love Paris マリアエレナ・Fly Me to the Moon・愛は君のよう 古きパリの岸辺にて・My funny Valentine For Sentimental Reasons・When I Fall in Love Nice 'n' easy・テネシーワルツ・I Wish You Love 枯葉・Let me Try Again
出演	指揮：延原武春 ヴォーカル：原田紀子・永海 孝 Stomp in Telemann、テレマン・アンサンブル MC：今井由美
来場者数 備考	226 名 毎年恒例で開催しているスタンダード JAZZ の公演。 ロビーにてワインとチョコレートサービスを行いました。

日本テレマン協会第 541 回マンズリーコンサート
高田泰治リサイタル
バッハ一族の鍵盤音楽

日時	2024 年 3 月 29 日 18:30
会場	大阪俱樂部 4 階ホール
曲目	J.S. バッハ：半音階的幻想曲とフーガ BWV903 C.P.E. バッハ： プロイセン・ソナタ Wq.48-2 ヴェルテンベルク・ソナタ Wq.49-6 J.S. バッハ：フランス風序曲 BWV831 チェンバロ：高田泰治
出演 来場者数 備考	103 名 J.S. バッハと C.P.E. バッハの作品を取り上げました。 バロックの終わり頃の J.S. バッハの作品と、 新しい時代を感じさせる C.P.E. バッハの作品の 対比が面白い公演となりました。



教会音楽シリーズ Church Concert

第 197 回教会音楽シリーズ
J.S. バッハ「クリスマス・オラトリオ」

日時	2023 年 12 月 25 日 18:00
会場	カトリック夙川教会聖堂 楽廊
曲目	J.S. バッハ： クリスマス・オラトリオ第一部～第三部 W.A. モーツァルト： ラウダーテ・ドミヌム アヴェヴェルム・コルプス クリスマス・キャロル： 「まきびとひつじを」「もろびとこぞりて」
出演	指揮：延原武春 福音史家：新井俊稀 ソプラノ：中村朋子 アルト：渡邊由美子 テノール：鹿岡晃紀 バス：篠部信宏 テレマン室内合唱団 テレマン室内オーケストラ
来場者数 備考	269 名 2019 年以來の公演となりましたが、以前と同様、 大変多くのファンの方にご来場頂きました。

第 198 回教会音楽シリーズ
J.S. バッハ ヨハネ受難曲

日時	2024 年 3 月 16 日 13:30
会場	カトリック夙川教会聖堂 楽廊
曲目	J.S. バッハ：ヨハネ受難曲
出演	指揮：延原武春 福音史家：新井俊稀 イエス：林 康宏 ソプラノ：中村朋子 アルト：渡邊由美子 テノール：鹿岡晃紀 バス：澁谷英明 テレマン室内合唱団 テレマン室内オーケストラ
来場者数 備考	316 名 第 300 回定期演奏会のバッハ「マタイ受難曲」 に対し、オーソドックスな形での演奏となりました。 受難週に近い時期の教会での演奏ということで、 大変たくさんの方にご来場頂きました。

依頼公演 について

自治体、企業、団体、ホールなどからの依頼公演を98公演開催し、18世紀音楽の普及に努めるとともに、都心部から離れた会場での公演では、地域のサロンづくりにも貢献することが出来ました。単年度ではなく、継続的にご依頼いただいている公演は「第九 de クリスマス

(大阪市/ザ・シンフォニーホール)、「バロックコンサート (池田市/池田市民文化会館)」、「テレマンのバロックの宴 (伊丹市/旧岡田家住宅・酒蔵)」、「テレマンコンサート in 中崎公会堂 (明石市/中崎公会堂)」などとなっております。令和4年度より増加傾向にある食事付

きの公演企画「アフター・ランチ・コンサート」シリーズは主催として旅行社・新聞社9社、7会場との協働企画で開催し、公演数は32公演となりました。



依頼公演の分布 (月別)

依頼公演	(主催公演)
4月 7公演	(3公演)
5月 11公演	(1公演)
6月 4公演	(1公演)
7月 7公演	(3公演)
8月 9公演	(1公演)
9月 14公演	(1公演)
10月 12公演	(2公演)
11月 9公演	(1公演)
12月 9公演	(2公演)
(2024年)	
1月 2公演	(5公演)
2月 7公演	(1公演)
3月 7公演	(3公演)
合計 98公演	(24公演)

依頼公演の分布 (地域別)

北海道	1公演	石川県		岡山県	
青森県		福井県		広島県	
岩手県		山梨県		山口県	
宮城県		長野県		徳島県	
秋田県		岐阜県		香川県	
山形県		静岡県		愛媛県	
福島県		愛知県		高知県	
茨城県		三重県	1公演	福岡県	
栃木県		滋賀県	1公演	佐賀県	6公演
群馬県		京都府	4公演	長崎県	6公演
埼玉県		大阪府	54公演	熊本県	
千葉県		兵庫県	17公演	大分県	
東京都		奈良県		宮崎県	
神奈川県		和歌山県	2公演	鹿児島県	
新潟県		鳥取県		沖縄県	6公演
富山県		島根県		その他	

学校公演 について

2023年度の学校公演は、令和5年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）（以下学校巡回事業）を受託しました。

学校巡回事業は鑑賞だけでなく体験にも重点を置いた事業であるため、公演に際しては共演のプログラムを用意していま

す。公演の内容は、バロック時代の有名な曲を中心に構成し、鑑賞する児童・生徒に馴染みの深いリコーダーの独奏曲や協奏曲などを取り上げております。基本的には短い曲が多い構成となっておりますが、プログラムを順にお聴き頂くと、各弦楽器からチェンバロ、

リコーダーと、バロック音楽のオーケストラで使用されている楽器について学べるように構成されています。さらに、プログラムにはバロック音楽や楽器についての簡便な説明も掲載しています。

◎舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）とは

舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）は、小学校・中学校等において文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケー

ション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業です。

（令和5年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）実施の手引きより）

学校巡回事業の日程

【ワークショップ】

- 8月30日 壱岐市立初山小学校
- 8月31日 壱岐市立鯨伏小学校
- 9月1日 鹿島市立鹿島小学校
- 9月12日 嬉野市立大野原中学校
- 9月13日 沖縄県立西崎特別支援学校
- 9月21日 長崎市立晴海台小学校
- 9月28日 与那国町立与那国中学校
- 9月29日 与那国町立久部良中学校
- 10月17日 嬉野市立轟小学校

【本公演】

- 10月3日 壱岐市立初山小学校
- 10月4日 壱岐市立鯨伏小学校
- 10月30日 沖縄県立西崎特別支援学校
- 10月31日 長崎市立晴海台小学校
- 11月7日 嬉野市立大野原中学校
- 11月8日 鹿島市立鹿島小学校
- 11月9日 嬉野市立轟小学校
- 11月16日 与那国町立与那国中学校
- 11月17日 与那国町立久部良中学校



社会的活動 について

国際交流への協力

国際交流への協力としては協会創立60周年記念事業第300回定期演奏会の実施の他、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館主催「初夏のコンサート」と関西日豪協会主催「オーストラリアDAYスペシャルコンサート」に出演しました。

マルティン・エバーツ総領事の退職記念コンサートとして実施された「初夏のコンサート」ではドイツのバロック音楽を軸とした演目を披露しました。

「オーストラリアDAYスペシャルコンサート」では当協会の専門分野であるバロックから古典派の音楽に加え、オーストラリアと密接な関係のあるイギリスの音楽の他、オーストラリア国歌、第二の国歌と呼ばれる「ワルツィング・マチルダ」などを在大阪オーストラリア総領事館のトレバー・ホロウェイ総領事をはじめとする参加者に披露しました。

初夏のコンサート

日時	2023年6月8日(木)
会場	神戸メリケンパークホテル
曲目	G.Ph. テレマン： シンフォニア フルート協奏曲より J.S. バッハ：G線上のアリア チェンバロ・コーナー J.S. バッハ： ブランデンブルク協奏曲第5番より 【6月8日聖体の日に寄せて】 C. フランク： パニス・アンジェリクス 【オーボエ・コーナー】 F. シューベルト： アヴェ・マリア 日本の歌
出演	指揮・オーボエ：延原武春 テレマン・アンサンブル

オーストラリアDAYスペシャルコンサート

日時	2024年1月25日(木)
会場	リーガロイヤルホテル大阪
曲目	オーストラリア国歌 G.Ph. テレマン： 四声部のためのソナタ J.S. バッハ：G線上のアリア W.A. モーツァルト： ディヴェルティメント ビートルズ・メドレー E. エルガー：威風堂々 A.B. パターソン： ワルツィング・マチルダ
出演	指揮・お話：延原武春 テレマン・アンサンブル



再生紙の使用

マンスリーコンサート(年間8公演)のチラシ(A4サイズ)及びプログラム(B4サイズ)、定期演奏会(年間8公演)のプログラム(A3サイズ)には、環境に配慮し、100%リサイクルの再生ケント紙である「クラークケント」を使用致しました。

親子公演の実施

クラシック音楽ファン層の次世代・次々世代育成のために親子で楽しめるファミリーコンサートを実施しました。お子様にも親しみやすい演目を中心に、大人も楽しめる企画となりました。詳しくはp.10の協会創立60周年記念事業の部分をご参照下さい。

25歳以下1000円券

若い世代のクラシック音楽離れが顕著になっている中、18世紀音楽のすばらしさを気軽に味わっていただき、文化振興の一助になればという思いから、主催公演では25歳以下の方向けに1000円券の販売を実施しました。

年表

1960s

1963

延原武春を中心にテレマンアンサンブル発足。
(現：テレマン室内オーケストラ)

1965

定期演奏会スタート。

1966

大阪文化祭賞 (以後 72 と 82)

1968

マンズリーコンサートスタート (会場は津村別院)

1969

テレマン室内合唱団が発足し、室内楽における総合団体
「大阪テレマン協会」となる。

1970s

1970

音楽クリティッククラブ賞 (以後 75 と 76)

1975

大阪府民劇場賞 (以後 85)

1977

文化庁芸術祭優秀賞 (関西より初受賞)
ビクターレコード制作「テレマン協会シリーズ」発売開始。

1980s

1981

G.Ph. テレマン生誕 300 年を記念し、コンサート
(文化庁芸術祭主催)、出版、レコードを発売。

1982

定期演奏会にて L.v. ベートーヴェン交響曲第 9 番「合唱付」
を合唱団・オーケストラ合わせて 100 人で演奏(100 人の第九)。
テレマン室内管弦楽団がドイツへ演奏旅行。テレマンの生地
マクテブルクでの公演実現。

1984

マンズリーコンサートの会場が大阪倶楽部になる。

1985

テレマン室内合唱団・同管弦楽団総勢 70 名、東ドイツ
へ演奏旅行。(“バッハ生誕 300 年記念国際音楽祭” に出演)
サントリー音楽賞 (関西より初受賞)

1987

「ベルリン市制 750 年記念音楽祭」に参加。また、ロンドン
デビュー公演を実現。
「ソウル国際音楽祭」参加。日本の室内楽団では初の韓国公演。

1989

テレマン室内合唱団が創立 20 周年を迎え、教会音楽シリーズ
も 100 回記念演奏会を行う。
フランス革命 200 年を記念し、パリ、ボルドー、ヴァルドアール
各都市で公演を行う。

1990s

1991

バロック楽器の団体「コレギウム・ムジクム・テレマン」が
発足。サイモン・スタンデイジや中野振一郎主導のもとで、
様々な試みに着手。海外公演や CD 収録の他、数多くの本邦
初演・世界初演を行う。
G.F. ヘンデル「メサイア」の異なった 9 種の版を連続的に
公演。(～ 01)

1993

季刊誌「ゲオルク」創刊 (～ 03)

1995

G.F. ヘンデルの権威・故渡部恵一郎氏の監修のもと、ヘンデル
作曲の本邦初演のオラトリオをジェスチャー付きで連続
公演。(～ 01)

1999

中野振一郎 & コレギウム・ムジクム・テレマンによるドイツ
演奏旅行。

2000s

2000

ヘンデルのオラトリオ公演にて、上方講師・旭堂南左衛門
が共演。
琵琶湖水質浄化の紙の使用開始。演奏会を通じた環境改善活
動に着手。
小説「延原武春」(作：中野順哉)が東方出版より出版。
【CD】「J.S. バッハ：チェンバロ協奏曲集」

2002

御当地の歴史を取材した創作講談とのコラボレーション
「音楽絵巻」がスタート。
高田泰治がチェンバロ、フォルテピアノ、ピアノを弾き分
ける協奏曲の夕べに出演し、ソリストデビュー。
【CD】「ラ・フォリア」
【CD】「バッハ以降のチェンバロ協奏曲集」

2003

中野振一郎率いるコレギウム・ムジクム・テレマンがドイツ
へ演奏旅行。「バッハ・フェスティバル in ライプツィヒ
2003」に出演し、C.P.E. バッハ作曲「チェンバロ協奏曲」

の復元後、世界初演を行う。

【CD】「オーボエ協奏曲・バロック名曲集」

2004

【CD】「星に願いを」

2007

ハイドン作曲オラトリオ「四季」の公演が大阪文化祭グラ
ンプリ受賞。

2008

協会創立 45 周年を記念して、延原指揮によるベートーヴェ
ン交響曲全曲及び合唱幻想曲、荘厳ミサ曲連続公演を開催。
ベートーヴェンの指示したテンポとクラシカル楽器の使用に
よるこの公演は高く評価されCDに。

【CD】「テレマン作品集② 7つのトリオ・ソナタ」

2009

【CD】「ベートーヴェン・チクルス」リリース。(～11)

延原、ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。

延原が大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮するシリーズ
(ベートーヴェン交響曲全曲)が始まる。

「テレマン室内管弦楽団」改め「テレマン室内オーケストラ」
に改称。

2010s

2010

延原、日本フィルハーモニー交響楽団の横浜定期演奏会を
指揮。

2011

コレギウム・ムジカム・テレマン解散。

「指揮者・延原で」というコンセプトをもとに、関西在住の
フリーランスの奏者を集めオーケストラ Orchestra Japan

2011 を結成し、マーラー交響曲第 4 番を演奏。

【CD】「ブラームス：交響曲第 1 番」

【CD】「高田泰治チェンバロ・アルバム Vol.1」

ウッラ・ブンディース、首席客演コンサートマスターに就任。

2012

延原、Orchestra Japan 2011 を率いてドヴォルザーク
交響曲「新世界より」を好演。

【CD】「マーラー『亡き児を偲ぶ歌』『交響曲第 4 番』
(レコード芸術) 特薦盤」

【CD】「浅井咲乃：ヴィヴァルディ『ムガール大帝』」

創立 50 周年事業「大大阪ターフェルムジーク」を開催。

2013

【CD】「U. ブンディース 高田泰治 J.S. バッハ 6 つのソナタ」

Orchestra Japan 2011 を再結成し、3月11日にレクイ
エムを奏で続ける追悼公演を開始。

2014

ブランデンブルク州知事に対し、J.S. バッハ「ブランデンブ
ルク協奏曲」全曲を大阪にて連続公演することを公約しシ
リーズ開始。

大阪市中央公会堂での定期演奏会がスタート。

2015

【CD】「高田泰治 モーツァルト・アルバム」

【CD】「U. ブンディース 高田泰治 モーツァルト
ヴァイオリン・ソナタ」

2016

【CD】「高田泰治 うつろい」、

【CD】「高田泰治 J.S. バッハ ゴルトベルク変奏曲」

高田泰治がシーボルト賞受賞式にてドイツ大統領御前演奏に
出演。

延原武春が音楽監督兼 CEO に就任。

2017

高田泰治が平成 28 年度「咲くやこの花賞」音楽部門を受賞。

【CD】「U. ブンディース 高田泰治 古典派二重奏曲の系譜」
定期演奏会「中之島をウィーンに！」シリーズがスタート。

2018

創立 55 周年記念事業「テレマンの街ハンブルクから 中之島
をウィーンに！」を開催。

延原武春指揮テレマン室内オーケストラが、第九アジア初演百
周年記念“よみがえる「第九」演奏会”に出演。

【CD】「高田泰治ベートーヴェン・アルバム」

2019

浅井咲乃が平成 30 年度「咲くやこの花賞」音楽部門を受賞。

4 月、マンズリーコンサートが 500 回を迎える。

5 月、P. エスカンデ氏がテレマン室内合唱団指揮者に就任。

11 月、ベスト・プロデュース賞を受賞。

【CD】「ブランデンブルク協奏曲 全曲」

「高田泰治 ショパン&シューマン ピアノ協奏曲集」

2020s

2020

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い教会音楽シリーズが一時
中断。定期演奏会大阪公演では感染症対策も兼ねた縮小編成の
ベートーヴェンの交響曲シリーズを実施。

「18 世紀貴族の晩餐会」(於ニューオーサカホテル心齋橋)を実施。

【CD】「延原武春 心のオーボエ Vol.2 アヴェ・マリア」

2021

延原武春オーボエ生活 60 周年を記念し、リサイタル 2 公演と
個展を実施。

【CD】「延原武春×小林道夫『無言歌』」

【CD】「テレマン作品集③様々な楽器のための協奏曲」

2022

2015 年より継続しているバッハ作曲「ブランデンブルク協奏
曲」全曲公演が 11 月開催の第 291 回定期演奏会(東京公演)
で通算 10 回目を迎える。

2023

教会音楽シリーズを再開。

協会創立 60 周年記念事業を実施。

NHK BS プレミアム「クラシック倶楽部」に出演。

【CD】高田泰治クーラン一族のクラヴサン音楽集

【CD】バッハ 管弦楽組曲集

日本テレマン協会 後援会について

1980年、故鈴木剛氏（元住友銀行頭取）が中心となり日本テレマン協会の活動を支援するために発足。現在は多くの法人、個人の皆様にご加入いただき、さらなる会員の拡大を目指して積極的な活動を続けています。

役員名簿

2023年7月現在

会 長	尾崎 裕（大阪ガス）	特別顧問	野村明雄（大阪ガス）
副 会 長	香山 真（住友生命保険） 沖中 進（朝日放送グループホールディングス）	顧 問	齋藤元彦（兵庫県知事） 久元喜造（神戸市長） ジェイソン・リチャード・クーバス（アメリカ総領事） メラニー・ザクシンガー（ドイツ総領事） キャロリン・デービッドソン（イギリス総領事） ジャン＝マチュー・ボネル（フランス総領事） マーク・カウパース（オランダ総領事） テルスキフ・アレクサンダー（ロシア総領事） マルコ・ブレンチベ（イタリア総領事） イエルーン・ヴェルゲイレン（ベルギー大使館公使参事官） ブ・トアン・ハイ（ベトナム総領事） クリット・タンカナラット（タイ総領事） 趙 成烈（駐大阪大韓民国総領事） トレバー・ウィリアム・ホロウエイ（オーストラリア総領事） 多川俊映（興福寺寺務老院） ロニー・アレキサンダー（神戸大学大学院教授） 池長 潤（カトリック大司教） 千 宗守（武者小路千家家元） 高口恭行（一心寺長老） 小野善康（経済学者） 高木慶子（上智大学グリーンケア研究所） 前田万葉（カトリック 枢機卿）
理 事	福田里香（パナソニックホールディングス） 原 眞一（コーナン建設） 北山 隆（大阪音楽大学名誉教授） 宮島登美子（大阪ユニセフ協会） 小野敏夫（クラシック音楽興隆会） 室町鐘緒（三菱UFJ銀行） 森田一士（関西電力） 井上礼之（ダイキン工業） 中野剛志（三井住友銀行） 小林哲也（近鉄グループホールディングス） 佐野吉彦（安井建築設計事務所） 入谷泰生（新日本海フェリー） 鳥井信吾（サントリーホールディングス） 吉田有宏（千寿製菓） 杉浦 正（共和メディカル） 川崎益彦（桜宮ゴルフクラブ） 大林剛郎（大林組） 松田喜成（ニューオーサカホテルエンタープライズ） 山本啓之（ホテルモントレグループ）		
監 事	稲畑勝太郎（稲畑産業） 陳 英智（三洋実業）		

年表

1980s	1991
1980 5月発足。第1回理事会開催。会長に鈴木剛氏が就任。	故原会長の後を受けて、監事の波多野一雄氏が第3代目の会長に就任。
1982 3月、理事会にて顧問の設置が承認され、11月には顧問が決定。 12月、鈴木剛氏の逝去に伴い、原清氏が第2代目の会長に就任。	1997 7月、大西正文氏が第4代目の会長に就任。
1990s	2000s
1990 10月、原清氏急逝。	2007 7月、野村明雄氏が第5代目の会長に就任。
	2010s
	2016 7月、尾崎裕氏が第6代目の会長に就任。

法人会員

2024年7月現在

株式会社IHI 関西支社	サラヤ株式会社	日鉄P&E株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	株式会社産業経済新聞社	日本生命保険相互会社
愛知時計電機株式会社大阪支店	三幸メリヤス株式会社	株式会社ニューオーサカホテルエンタープライズ
株式会社アイツーエム	サントリーホールディングス株式会社	株式会社博報堂関西支社
医療法人 友仁会 浅井整形外科	JFEエンジニアリング株式会社	パナソニックホールディングス株式会社
朝日放送テレビ株式会社	JFEスチール株式会社	阪急電鉄株式会社
稲畑産業株式会社	シスメックス株式会社	非破壊検査株式会社
今津建設株式会社	株式会社芝川本店	フルライン株式会社
江崎グリーコ株式会社	情報技術開発株式会社	ホテルモントレグループ
大阪衛生株式会社	株式会社新川製作所	株式会社三井住友銀行
大阪ガス株式会社	新コスモス電機株式会社	株式会社三菱UFJ銀行
大阪ガス株式会社 東京支社	新日本海フェリー株式会社	矢崎エナジーシステム株式会社 大阪支店
大阪シティ信用金庫	シンプルライフ21	株式会社安井建築設計事務所
株式会社大林組 大阪本店	住友生命保険相互会社	一般財団法人山田満音楽芸術振興会
関西テレビ放送株式会社	千寿製薬株式会社	読売新聞大阪本社
関西電力株式会社	損害保険ジャパン株式会社	読売テレビ放送株式会社
株式会社カンダ	ダイキン工業株式会社	学校法人LABO-K学園
共和メディカル株式会社	株式会社大丸松坂屋百貨店	株式会社りそな銀行
近鉄グループホールディングス株式会社	大和ハウス工業株式会社	株式会社ロイヤルホテル
株式会社きんでん	株式会社竹中工務店	ロックペイント株式会社
株式会社クボタ	帝国ホテル大阪	株式会社ワキタ
株式会社公益社	株式会社電通 関西支社	匿名3社
鴻池運輸株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	
有限会社神戸楽譜	株式会社トーケンリースサービス	
株式会社公洋	東邦ガス株式会社	
株式会社コジマ	中井エンジニアリング株式会社	
コーナン建設株式会社	名古屋 宗次ホール	
西部ガス株式会社	南海電気鉄道株式会社	
桜宮ゴルフクラブ株式会社	西日本旅客鉄道株式会社	

個人会員

2024年7月現在

安積 博子	岡本 好平	楠 雄一郎	清水 淳彦	辻 本泰規	松 浦 靖	匿名 8名
天野 和生	小川 寛	久住 祐治	杉 浦 正	土井 英一	松 田 喜成	
池田 英美代	小野 敏夫	黒田 千之	杉本 千世子	土井 周子	三木 依子	
泉 さおり	小野 久恵	高 仁宝	直田 春夫	東 條 良賢	三宅 成典	
伊藤 康夫	梶原 健司	小作 英男	角南 忠昭	仲窪 菜穂子	宮本 敏子	
今井 由美	加藤 光司	小林 誠	鷺見 和彦	中西 守	家 辺 孝司	
上山 剛	加藤 卓哉	小谷 公穂	鷺見 博子	萩原 登志子	山口 敦子	
内田 友樹	川岸 弘賢	酒井 俊幸	鷺見 良彦	萩原 直大	山中 修治	
延 秀恵	菊枝 英興	佐藤 晴彦	園崎 明夫	橋本 依子	由良 恂一	
大西 國忠	菊竹 開三	里見 悦子	高田 満國	廣川 信一	吉田 好道	
大西 淑子	季 時雨	重 森 哲二	田中 佐代	福居 誠二	米 沢 康	
岡村 敬二	北 浦 告三	鳶 田 潤作	津 越 悦郎	藤 本 英子	和 田 誠一郎	

〈敬称略・順不同〉

日本テレマン協会ディスコグラフィー Discography

- テレマン作品集1 WWCC-7406
- バロック・オーボエ協奏曲名曲集 WWCC-7432
- 心のオーボエ WWCC-7478
- 100人の第九 WWCC-7543
- テレマン作品集2 WWCC-7567
- ベートーヴェン交響曲 第1番, 第2番 WWCC-7610
- ベートーヴェン交響曲 第3番, 第4番 WWCC-7622
- ベートーヴェン交響曲 第5番, 第6番 WWCC-7629
- ベートーヴェン交響曲 第7番, 第8番 WWCC-7639
- ベートーヴェン交響曲 第9番「合唱付」 WWCC-7658
- ベートーヴェン合唱幻想曲 & ミサ曲 ハ長調 WWCC-7667
- 高田泰治 チェンバロ・アルバム vol.1 WWCC-7684
- マーラー 亡き児を偲ぶ歌, 交響曲 第4番 WWCC-7695-6
- ヴィヴァルディ「ムガール大帝」四季 WWCC-7706
- バッハ 6つのソナタ WWCC-7715-6
- 浅井咲乃の「よろこび」と「かなしみ」 WWCC-7758
- ブラームス：ドイツ・レクイエム WWCC-7778
- モーツァルト ヴァイオリン・ソナタ WWCC-7783
- モーツァルト・アルバム WWCC-7788
- うつろい WWCC-7802
- J.S. バッハ ゴルトベルク変奏曲 WWCC-7823
- 古典派二重奏曲の系譜 WWCC-7832
- 高田泰治 ベートーヴェン・アルバム WWCC-7876
- ブランデンブルク協奏曲全曲 WWCC-7901-2
- ショパン&シューマンピアノ協奏曲集 WWCC-7906
- アヴェ・マリア 延原武春心のオーボエ Vol.2 WWCC-7928
- 延原武春×小林道夫「無言歌」 WWCC-7952
- テレマン作品集3 WWCC-7957
- 高田泰治 クーブラナー族のクラヴサン音楽集 WWCC-7984
- バッハ 管弦楽組曲集 WWCC-7986
- “テレマン”のテレマン WWCC-8005



2023年度版 一般社団法人日本テレマン協会 活動報告書

発行 一般社団法人日本テレマン協会

〒530-0002

大阪市北区曽根崎新地2丁目1-17

TEL06-6345-1046

FAX06-6345-1045

tij@cafe-telemann.com

<http://www.cafe-telemann.com/>

